

**第1回 川崎市総合計画有識者会議
議事録**

日 時 平成26年10月27日(月) 16:00～18:00

会 場 川崎市役所 第4庁舎 第3会議室

出席者

委 員 秋山委員、出石委員、垣内委員、中井委員、平尾委員、涌井委員
市 側 福田市長、三浦副市長、小金井総務局長、大村財政局長、
瀧峠総合企画局長、唐仁原都市経営部長、久万企画調整課長

- 議 題
- 1 委嘱状交付
 - 2 市長あいさつ
 - 3 委員紹介、事務局紹介
 - 4 設置要綱の確認
 - 5 座長、副座長の選出及び運営方針について
 - 6 議事
 - (1) 新たな総合計画の策定方針について
 - (2) 新たな総合計画策定のスケジュールについて
 - (3) 「川崎の未来を考える市民検討会」の開催結果及び「市民検討会議」について
 - (4) 全国的な動向及び市の概況について
 - (5) その他(次回会議等の開催等)

公開及び非公開の別 公開

傍聴者 3名

議事

開会

(久万企画調整課長)

ただいまから、第1回川崎市総合計画有識者会議を開催させていただきたいと存じます。私は、総合企画局都市経営部企画調整課長の久万でございます。後ほど、設置要綱に基づきまして、会議の座長が決まるまでの間、私が司会を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。はじめにお断り申し上げますが、本日の会議は公開とさせていただいておりますので、マスコミの記者の方々の取材や傍聴を許可しておりますことを、あらかじめご了承くださいと存じます。また、議事録の作成をお願いしております民間会社の方を同席させていただいており

ますので、あわせてご了承いただきたいと存じます。

1 資料確認・委嘱状交付

それでは、お手元にお配りしております資料の確認からさせていただきます。

- 委員名簿
- 座席表
- 資料 1 川崎市総合計画有識者会議設置要綱
- 資料 2 新たな総合計画策定方針（及び参考資料）
- 資料 3 新たな総合計画及び行財政改革に関する計画の策定に向けたスケジュール（案）
- 資料 4 新たな川崎の未来を考える市民検討会の取組
- 資料 5 川崎市総合計画市民検討会議 第1回全体会 開催概要
- 資料 6 「全国的な動向」「市の概況」「財政収支の中長期的推計」
- 資料 7 有識者会議・市民検討会議の流れ（案）

それでは、お手元の次第に従いまして進めさせていただきますが、まず、福田市長から委員の方々に委嘱状を交付させていただきます。

<委嘱状交付>

それでは、次第の2に移らせていただき、福田市長から皆様にご挨拶を申し上げます。では、市長、お願いいたします。

2 市長あいさつ

（福田市長）

こんにちは。皆さまには公私ともにお忙しい中、有識者会議をお引き受けいただきありがとうございます。各分野の第一人者にお集まり頂き、市長として御礼申し上げます。川崎市のこれからの10年間を見通した財政状況は、一番楽観的に見ても1,600億円を超える収支不足が見込まれる厳しい状況でございます。一方、市民の皆さんからのリクエストは多岐にわたり、そのニーズにしっかりお応えするためにも、限られた予算の中で、いかに地域経営を効率的、効果的に運営していくかが課題となり、市民の皆さんと地域情報を共有することが重要だと思っております。市民検討会議がすでに始まっており、委員の中に、無作為抽出により選ばれた市民が参加するという初めての取組みをしていますが、市民の皆さんから非常にバランスの取れたご意見を頂いており、有識者会議の皆さんの専門的な知識と併せて、上手にコラボレーションしながら市民の皆さんに見えるかたちでしっかりとした計画を作ってまいりたいと思っております。一年半という長丁場になり、お忙しい先生方には大変ご苦勞をおかけいたしますが、是非「先進都市川崎」らしい良いものを作っていきたいと思っておりますので、どうかご協力の程よろしくお願い申し上げます。

3 委員紹介、事務局紹介

<委員紹介、事務局紹介>

4 設置要綱の確認

(事務局)

<資料1説明>

5 座長、副座長の選出及び運営方針について

(事務局)

設置要綱第5条に基づき、有識者会議の座長を委員の互選により定めて頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

<意見なし>

(事務局)

特に、意見がございませんので、事務局として、座長に東京都市大学の涌井先生にお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

<一同、異議なし>

(事務局)

それでは、座長を涌井委員にお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

(座長)

座長を引き受けさせていただきます。先ほど市長から「先進都市川崎」というお話がありましたが、どの自治体も同じ課題を抱えています。この先進をどう読み取るかということが我々の役目ではないかと思っています。このため、「課題解決先進都市川崎」という気持ちで、皆さんと一緒に議論をしながら1つのベクトルを示せればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

副座長の選任ですが、座長による指名となっております。

(座長)

私自身は環境や都市計画など空間系を専門としているため、対照的な部分を専門にされている方ということで、出石委員に副座長をお願いしたいと思います。

(副座長)

副座長にご指名いただきました出石でございます。よろしくお願いいたします。大変重い役割をいただき、頑張りたいと思います。もともとは自治体現場におり、20年余り自治体公務員を務めておりました。総合計画にも実際に関わっており、逗子市の総合計画審議会の会長も務めております。逗子市は来年度から新しい総合計画を実施する予定で、先日答申を出したところでございます。このあたりの知見を活かし、座長を補佐して、頑張らせて頂きます。

(座長)

委員の先生方のご挨拶を頂戴したいと思います。

(秋山委員)

秋山でございます。慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスに所属しており、現在は主に地域包括ケアの中で、どのように自助・互助・共助・公助の関係をつくっていくかということの研究してお

ります。また、公衆衛生の中の特にヘルスプロモーションを専門にやっており、鶴岡キャンパス等を兼務しています。川崎市についてはすごい都市と認識しています。お役にたてるよう頑張りたいと思います。

(垣内委員)

政策研究大学院大学教授の垣内でございます。文化政策が専門で、ミュージアム、劇場、文化財などの価値を守り、育て、次代につなげていくために、国や地方公共団体が税金を投入してどのようなことに取り組むべきか、あるいは行うべきでないのか、取り組むとしても直接的なのか間接的に取り組むべきかなどを研究しています。近年は国や地方自治体からの要請もあり、その土地の記憶、住民が育ててきたものを将来につなげていくとともに、いかに地域を活性化していくのかが非常に大きな課題になっているように思います。特に3.11以降、そうした目に見えない大切なものを大事にしていく機運が高まっています。川崎市は文化先進都市であり、その計画づくりに携わらせていただけるということで期待しております。微力ながら頑張らせて頂きたいと思います。

(中井委員)

東京工業大学の中井でございます。昨日の川崎駅前のハロウィンパレードは賑わいがあった大変よかったです。かねてより、川崎駅前のまちづくりに関与しています。微力ですがよろしくお願いたします。

(平尾委員)

平尾でございます。有識者会議のメンバーにご指名いただき光栄に思っております。川崎市の総合計画に関わらせて頂くのは3回目です。専門分野は地域経済、イノベーション、ベンチャー、産業振興でございます。現在は昭和女子大学におりますが、10年ほど専修大学の経済学部で教授をしており、その時に都市政策研究センターのセンター長として、川崎市を題材に研究していました。「イノベーション都市かわさき」「環境先進都市かわさき」として、川崎が日本の将来の課題解決先進都市として、光輝く存在になってほしいと思います。また、市長のおっしゃった「最幸のまちかわさき」の「最幸」とは何かということ、総合計画の中で勉強させて頂きたいと思っております。

6 議事

(座長)

先ほど事務局からご説明がありました通り、この会議は公開でございます。また我々の発言をしっかりと記録したいという事務局のご希望もあり、議事録に発言者名を記載すべきかどうかご意見をうかがいたいのですが。

(副座長)

公募区民が審議会に参加されるケースの場合は、発言者名を控える場合もありますが、今回は有識者会議ということで、実名でよろしいのではないのでしょうか。

<意見なし>

(座長)

議事録には実名で記録させていただきます。併せて、議事録全般と、抄録と言いますか、両方作

らせていただき、各委員の先生方に発言を確認させていただきたいのでよろしくお願ひいたします。

(事務局)

<資料2～6説明>

(座長)

グローバルな状況から、川崎市の特徴、市民会議での意見の集約に加え、都市関連のデータを整理して説明頂きました。ありがとうございました。2020年東京五輪の一方で、1週間ほど前に都市間競争に関するレポートが公表され、都市間競争の中で東京をどれだけ強くするのかという議論が進んでいます。ニューヨーク、ロンドン、パリ、東京都にシンガポールが食らいついているという状況です。日本の競争力は、国家の競争力だけでなく都市間競争も大きなウエイトを占めています。国際金融戦略特区のように強いところを強くする一方で、地方は疲弊している可能性もあり、人口も偏在化しています。住宅の需要については、戸数を上回っているにもかかわらず、転居・住み替えが進んでおり、都市に住みながら故郷に住宅を持つなど、需要は底堅い状況です。私は“BEYOND2020”ということを盛んに言っており、2020年をピリオドにするのはおかしいと考えています。オリンピックレガシーが重視される一方で、日本国内で全くレガシーの議論が生まれていません。ロンドンにはスポーツレガシー、コミュニティレガシー、アーバンレガシー、エンバイロメンタルレガシー、エコノミックレガシーという5つのオリンピックレガシーという戦略的プロジェクトを掲げ、ロンドンの一人勝ちにはせず、イーストロンドンにオリンピックパークを設置することによりイーストロンドンの再生に成功したのです。

川崎市は、東京と横浜の狭間で個性を発揮しにくい環境下にあります。東京が経済武装化、横浜市は、I RとM I C Eに熱心と聞いています。川崎市はこのままでは赤字が拡大する一方で、いかに成長力を付けていくかが大きな課題だと思われます。また、川崎市は臨海部に並行して幅が広いというわけではなく、多摩川沿いに縦長の形状しており、横断交通が課題です。たとえば外郭環状が入ってきた時に川崎はどういう受け皿になるのかという議論についてはなかなか答えが出し切れていません。横浜と東京のそれぞれの個性とエネルギーが集中する中で、川崎はどのような目標や運営を掲げるのが非常に重要な課題であると考えています。人口密度が高いエリアでどの程度高齢化が進んでいるのかなどのデータがあると良いと思うのですが、どのような地域包括ケアを考え、財政バランスなり、あるいは逆に、必ずしも公助だけでなく、住民自身がお互いを支え合う共助の仕組みと、自助の構図をどのようにつくっていくのかも重要であると考えます。

(副座長)

昨日、国立社会保障・人口問題研究所の森田朗所長のお話を聞く機会があり、その中でも話が出たのですが、総合計画を策定するにあたり人口減の問題は切り離せない問題だと思います。子ども・子育て支援制度を整えても、時間がかかる問題であり、人口減少は止めることができません。フランスでも出生率2を切っており、日本で2.07以上にするのは難しいと思います。人口減を前提とした総合計画が必要であり、財政収支の問題もありますが、従来の考え方で総合計画や行財政改革を検討することは難しいと思います。都市間競争は、勝者であればよいのですが、敗者を生むこととなります。住民の視点に立って、大胆な思考転換をしなければ、結局は場当たり

的な計画になってしまいます。バラ色の未来が語られない総合計画をあえて作っていかねばいけないのかと思いますが、それでも市民一人一人の希望がある計画にすることは可能だと思います。

(秋山委員)

市民検討会の議事を見せていただき、元気な高齢者が多いことや、多世代との交流に取り組み、自ら川崎市を良くしたいという意見が含まれていることに感激いたしました。直近の体力テストによると高齢者は10歳若返っているということです。今までの当たり前が当たり前ではないという視点で、皆が協働して支え合うことができる仕組みづくりが、川崎であればできると思っています。

(平尾委員)

涌井先生のおっしゃった都市間競争におけるポジションは森ビル（森記念財団）が作成した指標で、その取り方ですと川崎市は確かに低いかもしれませんが、異なる指標であれば、結果は異なると思います。世界の工業都市におけるイノベーション力や工業力、新産業の成長率で見ますと、川崎市は上位に来るかもしれないと思います。川崎は日本のピッツバーグと言われていますが、ピッツバーグは、完全に重化学工業がなくなり、現在はメディカル地域として発展しています。川崎市は臨海部にこれだけの重化学工業をかかえており、従来型の環境破壊をするような大量生産ではなく、付加価値の高い高級素材に高度化してきています。アメリカのピッツバーグ、ドイツのデュッセルドルフ、フランスのツールもそうですが、川崎のようなまちはありません。重化学工業の転換、高度化を進めながら、同時に殿町のキングスカイフロントに高度なメディカル集積を進めるということで、川崎はイノベーション力が強く、これを川崎市の強みとして取り組んでいく自信がもっと必要ではないかと思います。市内総生産がどうなっていくかということを考えますと、成長率、人口、技術振興率は減少していきませんが、イノベーションにより成長率をカバーしていく余地はあります。KSPからキングスカイフロントまで、世界の技術先端都市として打ち出してよいのではないかと思います。もう一つ、策定方針23ページの、「最幸のまちかわさき」を何で測定するのかということです。最近の経済学ではGDPにかわってDNH（国民幸福総量）というのがあり、測定がなかなか難しいのですが、いろいろな市内幸福総量を最大化するというのを荒川区と新潟市で取り組んでいます。川崎市も最幸が何なのか定義づけられるとよいと思います。赤瀬川順平氏の書いた本に「老人力」がありますが、川崎市は老人力、シニアパワーが強く、地域貢献したいという高齢者が多いことは貴重な人的資源、都市資源だと思います。川崎の人口移動の話で、20代の流出流入が多いということですが、分析をして、たとえば専修大学の学生4万人の中にも結構川崎市に居住していた者がいて、シニアパワーとこうした学生パワーをどう連結させていくかという視点も深掘りして頂きたいと思います。

(座長)

日本の場合、負担と給付の話ばかりで、元気な高齢者を活用する視点が抜けているのです。愛知万博のボランティア12万人中、16%が65歳以上の高齢者で、豊田市と長久手市の老人医療費が半減したのです。何かに貢献していたりすると、病院に行かないわけで、そういった状況をどうつくるかが非常に重要だと思います。

(中井委員)

一つのポイントとしては、川崎市内の地域性です。各区の人口動向を見ても、生産年齢人口が増えているところ、減っているところ、また、高齢者は増えるのが普通なのですが、あるところで打ち止めになる区があるということ。多摩区は生産年齢人口が減り始めているにもかかわらず、高齢者がずっと増え続けるというやや特異なパターンです。そういうことから考えますと、各区の特長をどう伸ばしていくのか、総合計画の中で、バリエーションを持って考えることが重要だと感じました。

産業的な集積は東横線から海側に固まっていて、住宅地は北側になっています。地域経済に関しては、都市間競争は近隣と争っても意味はないと思うのですが、シンガポールや香港と争っていくことは大事です。川崎市は東京圏の中で重要な役割を担っているのです、まんべんなく地域成長というのではなく、南部は産業拠点として、北部は住宅地としてシニアパワーの活用と、地域によるメリハリが必要だと思いました。

人口の流入流出が多いのはよいことだと思っています。大都市の中にはそうした地域が多いのですが、特に川崎の場合は、地方からやってきた時にいきなり東京へ住むことはできず、川向こうにある家賃の安いエリアに住むというような傾向があります。これはベンチャービジネスも同じことが言えます。川崎市はインキュベーターとしての役割を持っている地域で、大都市にとって非常に重要な役割を担っており、そうした機能は決して失ってはならないのです。その分定住人口は低くはなりますが、そうした人たちは外に行っても必ず川崎市の応援団になってくれるはずなのです。定住市民ばかりでなく、期間限定の市民や、川崎市で働く昼間人口を大事にしてほしいと思います。

(垣内委員)

「成長と成熟を調和させる 最幸のまち」ということですが、誰にとってのどのような幸せなのか興味深いです。人口の変化は仕方のないことで、長期的な人口変動を見れば逆に20世紀が特殊な時代であり、21世紀はノーマルトrendに移っていくというようにも見るができると思います。人口が減れば環境負荷も下げられますし、その分小さく上手く運用できるのではないかと思います。20世紀は戦争があったり、公害問題があったりといろいろなことがありました。急速に伸びると必ずどこかにひずみがおき、それを解決しなければならないということになりますので、ノーマルトrendにうまくソフトランディングすることが今後日本社会が直面する一つのポイントなのではないかと思います。その中で成長と成熟を調和させるというテーマ設定は川崎らしいと思いました。これからは量ではなく質を追求する時代で、経済的な成長に関しても、従来型の価格競争力で大量に生産していくというやり方は続くことはないと思います。ドイツのルール地方などは、重厚長大産業が完全に撤退して、創造都市という動きが起きています。一方、川崎ではかつての工場の跡地に研究所ができるなどし、そういったことはありません。川崎市は依然として1人当たり付加価値額を維持しています。

成熟の部分は、今までの経済的な豊かさを目指すということから、それだけではなく、多摩川沿いを散歩する、ミュージアムに行く、劇場でよい音楽を聞く、地域でお祭りに参加するなど、経済的な豊かさが心の豊かさにつながっていくということが成熟の部分の一つと解釈させていただきました。川崎市は、既存資源の活用という観点からバランスが取れています。東京圏にありながら、まだ多くのものが残っているということが川崎の一つの大きな魅力だと思います。それ

を中途半端と考えるのか、強みと考えるのかは見方によるとと思いますが、多様な資源をうまく捉えてほしいと思います。

また、文化にとって高齢化社会は決してマイナスではありません。たとえば劇場に足を運んでくれるのも 50~70 歳代で、消費・供給ともに主役です。そういった高齢者の豊かな経験を地域に環流する仕組みができればソフトランディングできるはずです。

川崎市はここ 10 年くらいでイメージが大きく変わりました。公害、労働者のまちというイメージから音楽のまちというように変わってきて、それが少しずつ周囲にも浸透してきています。川崎の場合は、インフラ整備と地域に根ざしたアーティストをうまく活用して大きな成果を生み出したと理解しています。川崎市は人口規模としては、フランスの中で言えばパリに次ぐくらいの巨大都市だと思います。地域の多様性もあります。文化的な観点からも、各区、地域の強みを活かしながら、サイエンスや産業やインフラをうまく組み合わせ、多様性を持って縮退社会をうまく乗り越えられる計画になるとよいと考えています。

(座長)

多岐にわたるキーワードをたくさん頂戴しました。住民主体の行政を目指すべきというご意見で言えば、住民側の主体的なヘルスプロモーションをどう調整するのか、人口が減ってもシニアパワーが元気であれば、それがスチューデントパワーと化学反応すると面白いことになる、人口減少はポジティブに考えるべきで、ノーマルトrendへ回避していく中にソフトランディングの一つの戦略を描きだすべきなどの様々なご意見がありました。また印象的だったのは、川崎の多様性とはインキュベーターである特性によるというご意見です。また、イノベーションこそ重要、ボリュームからバリューへの転換など、こうしたキーワードの中に課題を解決するためのヒントがあるのではないかと思います。環境にずっと取り組んできたという観点から言いますと、現代社会は、環境デッドラインを超えており、これ以上豊かさを生む社会は無理である、そうだとすると、どうやって豊かさを深めるのか、「釣りバカ日誌」の浜ちゃんとスーさんどちらが幸福かを考えてみると、自己実現が非常に重要で、どのようにして豊かさを実感できるのかが大切です。個人的には GNH の評価基準を定めるという話はおもしろいと思いました。どうやっても隣接区域の影響や、都市間競争の話は避けられません。羽田空港を川崎にどれだけ取り込むのかという大きな課題を抱えている以上、首都圏全体あるいは日本全体に対して、川崎市という地勢学的な役割をどう捉えるかという課題は重要です。これからの産業は“ものづくり”というより“ことづくり”であり、すなわちライフスタイル産業だと思います。スティーブ・ジョブズはタブレット端末でライフスタイル革命を起こし、これが一つの大きなイノベーションになっています。つまりそういったゆとりの中からこそ、ライフスタイルのデザインが生まれ、そこに製品が生まれ、それが新しいものをキャッチアップしていくという可能性が非常に高いので、そういう意味で川崎は様々なツールがあるので、それをどう協働して戦略化するかということも課題なのではないかという気がします。

(市長)

お話を聞いていて思ったことを何点か話させていただきます。都市間競争はグローバルと国内を分けていくべきだと思います。グローバルの中で東京圏全体での川崎の位置を考えた時に、何を機能分担していくべきかを考え、川崎のポテンシャルをどれだけ引き出していくかが重要です。

国内での都市間競争はむしろ競争ではないかもしれないという気がします。

宮崎県と自治体間連携を進めようということで、現在三浦副市長が中心となって、木材利用を促進する計画に取り組んでいます。木材の大生産地と大消費地を結ぶことによる自治体間連携が新しい価値を生み、たとえば住宅の建て替え時に需要を生み出すというような形になります。そういった連携というのはこれからますます重要になってくると思います。宮崎県のみならず、全国の強みと連携して、人口減少を避けることはできませんが、日本全体がそれぞれの地域で雇用を生み出す必要があると考えています。自分の地域だけが良ければという考えは、総合計画の中から排除すべきだと思います。

新聞社のインタビューでも聞かれたのですが、「最幸のまち」というのはイメージとして、人が生きていく中で必要とされ、役割があると実感できる社会ではないかと思います。市民検討会の議論を聞いて感じたのですが、無作為抽出であるにもかかわらず、皆、やってもらいたいというよりも、何かができる、やりたいという人が多いです。元気シニアの人たちは積極的に関与したいという気持ちが強いのです。高齢者施策はひとくくりにするのではなく、元気シニアと要介護・要支援高齢者を分けて考えるべきなのではないでしょうか。現役で仕事をしてきた人が引退した後、人生2枚目の名刺を持って、地域活動を通し地域の中に還元できる役割や必要性を誰からも認められるというようなつながりのあるまちが、結果的に最幸のまちなのではないかと思います。今年からモデル事業で地域の寺子屋を各区1か所ずつ始めました。これを増やしていくつもりです。子育て世代とシニア世代は、それぞれがつながりを求めているということに気づかされたのですが、そのプラットフォームをつくるのが行政として重要ではないかと思います。これから市役所、区役所の役割が変わってくると思います。今後は、いろいろな主体をコーディネートしていくことが求められると思います。また、市民もそうしたことを、そのような段階にあるということを共有することが大切なのではないかと思います。

既存の団体（町内会、民生委員等）の役割はとても大切なのですが、そこへの参加率は低い状況です。一方NPOですとか自分の関心事には、積極的です。既存の団体はやるが多すぎて、対応できない状態ですので、そこを上手くつなげられないかと思います。川崎市はパワーや知識の有り余っている人が多いので、そこを上手く仕分けていくことが大事だと思います。

川崎の文化度の高さを認識しています。ミューザなど首都圏で一流の芸術に触れられる垂直的な良さから、水平的な方向に深化させるニーズが充満しているように感じています。川崎市の市民アカデミーは素晴らしいと思っているのですが、そこで学んだ高齢者がさらに自分たちで講座を持ち、知識を分け与えてくるサイクルはもっと誇るべきですし、広げていく必要があると思います。

川崎市の産業力には強みがたくさんありますので、これまでのストーリーからぶれずに進めていくことが大事だと思います。ポテンシャルの高さはここにいらっしゃる方皆が共有できていると思います。

（座長）

不安は焦りなどネガティブなものを生み出しますが、緊張感は創造性（クリエイティブ）を生み出します。不安な要素はポジティブに考えていくことが必要だと思います。市長のポジティブな姿勢に安心いたしました。

事務局から今後のスケジュールについてお願いします。

(事務局)

<資料7説明>

(副市長)

本日は第1回有識者会議ということで、とても密度の濃い議論だったと思います。個人的には3回目の総合計画策定になりますが、毎回、このような場に立ち合わせていただき本当にありがたいと思っています。この会場におります市の中堅職員たちが、確実に川崎市の行政を背負って立つメンバーですので、彼らにとっても大変有意義な場になったと思います。1年半という長丁場になりますが、川崎市は日本の縮図であり、様々な課題解決のフィールドでもありますので、大いに議論していただき、解決に向かって最幸のまちを目指してまいりたいと思います。今後ともお力添えをお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

以 上